

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202833		
法人名	社会福祉法人 佐世保市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームよしいの郷 A棟		
所在地	佐世保市吉井町橋川内570-4		
自己評価作成日	平成27年12月7日	評価結果市町村受理日	平成28年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな場所に位置し、広い中庭からは季節の移り変わりを体感できる環境にあります。今年度より、吉井介護事業所が隣接したことにより、デイサービスの利用者との交流もあっています。又、利用者やご家族の意向に沿ったケアに重点を置き、毎日が穏やかに過ごしていただけるよう支援をおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゆったりとした和風の雰囲気のある建物内部には箱庭があり、周囲の廊下を利用者が歩行リハビリに利用している。今年度から吉井介護事業所が隣接して開設したことで、デイサービスの利用者等との交流も増え、地域の高齢者福祉の拠点となっている。理念の中にある、一人ひとりの今を大切に、その人らしい安心して暮らしてできるようにと、職員が笑顔で声掛けを多くし、思いに寄り添う支援に取り組んでいる。非常時に備え、災害時支援カードを個別に作成し、利用者の状況及び家族との引継ぎなど分かりやすく準備している。看護師が今年度から、3名になり医療連携が充実し、更に宿直者を増員し、各ユニットの夜勤者と3名での夜間体制が強化されたことは利用者、家族等の安心に繋がっている。利用者が毎日を楽しく、穏やかに、その人らしく充実した暮らしを実現できる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームよしいの郷 A棟
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のスタッフ会の折、理念を読み合わせすることで、確認し合っている。	職員は、毎日のスタッフ会議のはじめに理念を唱和することで、理念の意義を確認している。理念の一部「温かい雰囲気の中で」をキーワードに、利用者の今を大切にし、その人らしく安心して暮らせる介護について職員は検討している。個性を受入れ、笑顔で接する支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区費を収め、区の一員としての配布物や、催し物の参加を受けている。	自治会に参加しており、職員は地域の祭りや催事に参加したり、週末は自主的に地域清掃活動を行っている。利用者と地域駅伝大会を応援したり、保育園児たちとの交流など、地域との関わりを大切にしている。地域住民から認知症についての相談を受けるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや近隣居宅介護事業所との連携を密にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月運営推進会議を開催し、その場で出来事などを報告している。その中で委員からの意見があった場合は実践につなげている。	年6回開催し、家族代表、行政、地区代表、所轄警察等の参加がある。事業所から取組みなどの報告の後、参加者による質疑や助言等がある。欠席時も議事録を送り、情報を共有している。参加者の要望で、行事予定を議事録に記載することで、メンバーが行事に参加しやすくなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会のメンバーに市長寿社会課の保健師が入っており、毎回参加があっている。	介護保険の諸手続きや住所変更、手続き上で不明点があれば、行政センターや担当課などに問い合わせ、日頃から関係を築いている。今年度はマイナンバーの郵便物取り扱いについて尋ねている。介護に関する情報や研修の案内があり、職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所者の認知症状の変化により、ケア方法を替える必要があった場合は早急に話し合いを行い対応している。その中で身体拘束になるかどうかの判断も並行して行っている。	身体拘束のないケアについて、年数回内部研修を実施している。市主催の講演会も受講している。職員はスピーチロックなど言葉による拘束についても理解し、互いにフォローしている。また、スタッフ会議で事例を挙げながら尊厳のある見守り支援と言葉遣いを確認しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や、事業所内でも1回/年行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の研修で今年度、制度についての研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	直接面接し、書面での説明を行い納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を施設に設けたり、又苦情受付機関をお知らせしたりしている。苦情があった場合は、早急にスタッフ会を開き問題解決を行っている。	利用開始時に苦情相談窓口や意見箱を説明し、家族が相談しやすい体制を構築している。家族が相談しやすい雰囲気づくりを心掛け、訪問時や電話などで家族の思いを聞いている。家族からの意見があれば、すぐにスタッフ会議を開催し、サービス向上に活かしている。ただし、事業所の運営状況を説明する機会が少ない。	夜勤や看護職員体制の増員のような事業所の取組みは、家族にとって知りたい情報であるため、多くの家族に周知できるよう手段や取組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見を聞くようにしている。	毎日の申し送りや毎月のスタッフ会議では、職員が意見や提案を出している。年度末には、所長は職員と個人面談し、職員の目標や希望等聞き、働きやすい職場環境になるよう努めている。職員の要望で物品購入や支援内容を検討しており、スタッフ会議の開始時間を変更することで、有意義な会議が開催されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤から常勤職員へ雇用変更があったり、特殊業務手当の増額があっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修へ参加させ認知症ケアの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市のグループホーム連絡協議会へ入っており、研修会の開催や交流会を通じて交流を深めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ全員が入所前の状況を十分把握し、入所後こういった形でのケアが最も良いのかをスタッフ全員が共有しケアに当たっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所者だけでなく家族も不安であるため、困っていることや要望を聞き、関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込の段階で、今グループホーム入所が適当かどうかの判断をご家族、居宅ケアマネと協議しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることをみつけ、その人らしく生活できるよう支援を行うことで自信へと繋がり、ともに暮らすことの意味を強いものとする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や居心地の良い空間作りに努めている。又、外出や外泊の際にも、一日の流れを家族が把握できるよう支援をおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の面会があれば、自室にて一緒に過ごしていただいている。	本人・家族から生活歴などの情報を収集し、書面にて共有している。家族や友人・知人等の訪問も多く、病院受診時に近所の住民とのおしゃべりを楽しみにしている利用者もいる。家族が遠方にいる利用者は電話で話したり、家族と職員が車椅子利用者の寺や墓参りを支援するなど、馴染みの関係を大切にする取組みがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で一緒に行動したり、声をかけあえるよう、職員が間に入り仲をとりもっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のご家族に街で会った時は声かけし挨拶を交わした、お互い近況報告等ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今何がやりたいのかを職員全員が生活の中から把握し、意向が実現できるように必要な支援を話し合っている。	利用者の思いやペースに寄り添う支援を目指し、利用者一人ひとりの思いを日常の会話の中から汲み上げている。表出困難な利用者には、職員が様々な提案を行い、試みて表情の変化やしぐさなどで意向を汲んでいる。職員の視点の違う目で感じた気付きは、申し送りや日誌に追記され職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報提供により把握できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が目となり耳となり、職員全員が情報共有できるよう引き継ぎを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿ったケアを行い、その結果を毎日のチェック表を通じモニタリングをし、月1回のスタッフ会にて計画について見直しが必要かどうか話し合いを行っている。	計画は長期6ヶ月、短期3ヶ月の目標設定である。利用者、家族の要望は、家族の面会時や電話で聞き、計画に反映し、ケアプランは同意を得ている。ケアプラン評価実績表に記録し、モニタリング時に情報を活かしている。毎月のスタッフ会議で計画の見直し等検討している。入退院後は医師の意見を入れ、計画変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人チャートやケアプラン実践確認表を通じ記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる範囲での支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の社会資源を把握し、入所者の方が必要な時はできる限り利用できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本入所前のかかりつけ医の変更はしていない。もし、変更する場合は、紹介状を頂き家族本人の承諾を得てから行っている。	かかりつけ医を継続受診しており、通院は職員が対応している。専門科によっては家族に同行を依頼することもある。歯科は往診対応の協力医がおり、夫々の受診内容は受診記録に記載し、家族に報告している。看護師を増員し、利用者の健康管理体制を強め、緊急時の対応も明確で、職員も理解し適切な対応ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/週、看護職の活動支援の日を設け、週報に基づき支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、GHからの情報提供表を担当者に渡し、退院時には看護サマリーをもらい情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度より、医療連携体制加算を始めるのあたり、家族に終末期のあり方についての説明を行い確認を取っている。	利用開始時に重度化及び終末期の説明を行っている。状況に応じ、医師や家族と話し合っている。できる限り事業所で過ごせるよう、具体的な支援内容を看護職員と共に話し合い、看取りに前向きに対応できるよう看護師資格者を増員している。職員も重度化についての勉強会や講習会に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1回/年、事業所内での消防署による救急法についての研修があっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎日の見回りと、3回/年の避難訓練、又GH連絡協で開催される、消防署指導の防火管理講習会へ職員の参加を行っている。	年3回避難訓練しており、内1回は消防署立合いの訓練である。地域民生委員等の参加がある。毎日想定した火元を自主点検を行い、未然に防ぐよう努め、自然災害及び原発事故時の対応マニュアルを整備している。県からも避難誘導のアドバイスを得ている。夜勤は3人体制を確保し、備蓄及び持ち出し備品も整備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	GHの理念にあり、スタッフ会の折には全員で読み合わせを行い、目につく所に掲示し、常に注意し、ケアにあたっている。	利用者の羞恥心に配慮して支援している。失禁時はさりげなく対応している。排泄の有無を尋ねる時も自尊心を損ねないよう声掛けに配慮している。利用者個人情報に関する書面は、事務所で管理し、職員の守秘義務も周知徹底している。ただし、通信やホームページや写真掲載についての同意が口頭のみである。	法人の「社協よしい通信」には、法人全体の施設情報があり、配布範囲も広くなり得る。写真掲載の個人情報使用に関しては、書面にて同意確認が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者の傍にいて把握できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間、入浴の曜日等希望があれば変更を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日化粧をしている方がおり、職員が支援を行っている。又、起床時の整容にも気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、その方の好みの物を事前尋ね、提供するようにしている。又食べやすい形態での食事の提供を行っている。しかし現在入所の方には調理を手伝える方はいない。	献立には、利用者の好みや地元の旬の食材を取り入れている。嚥下に合わせ、ミキサー食や刻み食に対応している。食欲不振時は、気分を変えて事業所のデッキで弁当を提供することもある。誕生会やひな祭りなどの行事食、年2回の外食会もあり食事を楽しむことができる支援を行っている。利用者の退院日に赤飯でお祝いすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重コントロールが必要な方、嚥下の悪い方、便秘気味な方など個々の状態に合わせたものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は自立しているが、見守りが必要な方がおられ、以前は時々尿パットを捨てておられたが、一回り大きくすることで、その行為がなくなり見守り程度でよくなっている。	事業所ではトイレでの座位排泄を支援している。利用者の排泄パターン表をつけ、利用者毎の習慣を職員が把握している。できる限り失敗のないよう時間を調整しながらトイレ誘導している。自立の場合、見守り確認している。おむつやパッドを使用する時は、時間帯や適した種類など、一人ひとりについて見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医に相談しながら、乳製品や食べ物、運動を増やす等合わせて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番に入りたい希望のあった方には、希望通り、順番を早めて入浴を楽しんでもらっている。	毎日入浴できるよう準備し、週2日を目安に支援している。拒否時は、声掛けや時間を変え、場合によってはシャワー浴や清拭で対応している。湯温や入浴順序は希望を取り入れている。入浴中は、職員が1対1で対応し、ゆっくり話しながら入浴を楽しんでいる。車椅子や寝たきりの利用者も湯船に入れるよう様々な器具を準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れていない方には午前中休んで頂き、ある程度リズムを作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握できてる。変更時には、状態に注意するよう指示を出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや新聞折り、壁飾り用の季節の折り紙お化粧等スタッフと一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	墓参りに行きたい方支援をご家族同伴で行った。	天候や利用者の体調に配慮しながら、外出を支援している。事業所のデッキで体操したり、周辺の散歩、隣接するデイサービスへ遊びに出掛けている。車椅子利用者も同様に外出している。日曜日に買い物やドライブ等、個別に対応したり、地域の名所見物へ外出を年数回企画し、全員が外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員の方の金銭管理を管理者が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいと言ってこられたときは、電話をかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱をまねかなような工夫を廊下や居室ドアに張り紙をしている。又季節感を味わっていただけるように、その季節にあった壁飾りを行っている。	ソファやダイニングテーブルなど、利用者の好みの場所で寛げるように配置している。テレビを見たり、ぬり絵をしたりその人らしく過ごせる場となっている。手作りの季節の壁飾りや庭の木々で季節を感じ、調理の音と匂いが家庭的な雰囲気である。掃除や室温調節は職員が行い、清潔で居心地よく過ごせる居間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファの座る場所については、気の合う者同士で隣合わせたいと言う方もおられ、希望に沿った席にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内へ家族の写真を貼ったり、使い慣れた物を持参したりされている。	居室は、畳の間とフローリングタイプの部屋があり、ベッドと整理棚を準備している。事業所で馴染んで暮らせるように、使い慣れた寝具やテレビ、鏡台、タンスなど持込みは自由である。家族の写真、手作りの小物を飾り個性豊かな居室である。職員が掃除や換気し、快適な生活環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には障害物をおかないようにしており、自由に移動できる環境に留意している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202833		
法人名	社会福祉法人 佐世保市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームよしいの郷 B棟		
所在地	長崎県佐世保市吉井町橋川地570-4		
自己評価作成日	平成27年12月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気でのなかで、穏やかに、できるだけその人に合わせたペースで生活できる環境づくりをしている。入居者には生活の楽しみの一つでもある食事をできるだけおいしく、好きな物を食べて頂けるようメニューの考案、個別の食材や形体の変更など臨機応変に対応するよう心掛けています。 また、主治医とも必要時はすぐに協力して頂けるよう支援しており、安心して生活ができる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームよしいの郷 B棟
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は開設当初から変わってはいないが、スタッフ全員が日頃から認識、実践できるよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りなど、参加できる際は参加している。また通院や買い物で地域の方とお会いする時は挨拶を心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際にお話しする事はあるが、地域全体にお話しできる機械がなかなか設けれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を報告し、委員の方からの質問やアドバイスに耳を傾け実践できることは取り組んだりしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	周知できるように努めている。玄関は夜間防犯のための施錠のみで昼間は施錠せず。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加。スタッフ会議や復命書にて、全員周知できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加にて勉強している。実際に成年後見制度を利用した方はいないが、隣の棟のケースにて学べる機会もあった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にまず説明し、また法改定で内容の変更があった際は、その都度説明書類準備し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているがなかなか反映はされていない。家族が直接意見を言いやすい環境には心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	可能な事は反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年休や育児休暇、介護休暇など、職員の状況に応じて職員同士で助け合いできるところは管理者が調整し、勤務をカバーしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の勉強会や研修は、参加が可能な者は偏らないよう順番に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の勉強会や総会、交流会の参加をしている。困難事例の検討会などお互いに勉強させていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症があられても、本人の要望を聞くことを前提に、確認や把握が難しい時はご家族に話を伺ったり、生活の中で本人にとって良いサービスが出来るよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上 また本人とご家族の要望が一致しない時もあるが、それぞれに耳を傾け確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際にご要望などお聞きしているが、他のサービス利用を含めた対応が必要なケースがなかった。また、ご家族以外にも在宅時の担当ケアマネとも連絡取り合い必要時は相談などしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物畳みや、シーツ交換、入浴時の衣類の準備など、出来る事、出来る方に関しては本人にして頂いたり、お手伝いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時可能な時は同行して頂いたり、外泊や外出をして頂いたり、入居者と家族との関係を大切にいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医にて昔ながらの友人や近所の方、知人の方との交流をして頂いたり、行きつけの床屋に通ったりしてもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めているが、認知症や精神疾患のある方に対しての支援に苦慮しているケースもある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設外でご家族にお会いした際は声を掛けさせてもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事摂取が困難な方には個別で食べる場所や容器、食べるメニューを変更したり、嗜好品を購入したりしなるべく好きな物を食べてもらえるよう試行錯誤し工夫し努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の担当ケアマネから、出来る範囲で情報を収集し、ご家族にも伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、歩行状態、排泄など1日1日で状態変化がある方も、その日その日で柔軟に対応できるようにしている。スタッフ間の情報交換、申し送りの徹底。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議の際にケース検討を行っている。ご家族に状態報告すると共に要望や意見を聞いたりしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に気づきがある際は記入している。緊急時以外はスタッフ会議でケース検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歩行訓練でリハビリが必要な方が通院が難しい際、隣のデイサービスの平行棒にて訓練など出来るような環境である。また催しものがある際はすぐに行き来ができる。車椅子等の貸し借りなどもしやすくなった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物外出ができる際は、最寄りのコンビニエンスストアや町内のスーパーにて買い物する時がある。また美容室なども行ける範囲で通っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と話し合いをし要望に添った医療機関で受診できるよう努めている。必要時は専門医の受診もさせてもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	27年4月より、健康管理記録表も作成し、1週間ごとに入居者の、健康面、生活面など含め状態を記録し看護師に対応など助言してもらい、全員が把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	手遅れにならないように入院が必要な際は医師の判断で入院先を紹介して頂いている。入院中面会が可能な時は面会し状態をお伺いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約の際に説明させていただいている。実際に看取りをしたケースはここ数年ない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAEDの使用など消防署より年に1度指導していただいている。参加できる職員は参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	施設内オール電化で火を使わない環境にしている。また、毎日防火管理自主検査表にて点検を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々には反省する場面も個々であるが、心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	確認が難しい方もおられるが、なるべく最初から決めつけないよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る範囲で融通が利くように対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全員ではないが、自分で鏡をみて髪の手入れをしてもらったり、行きつけの美容室に通えるよう支援したり、ご家族にご協力いただいている。また自分で洋服を選べる方は自分で選んで着替えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なかなか準備や片づけが難しく一緒には出来ていない。食事は作った職員と一緒にテーブルで味など意見を聞きながら食べている。その際食事摂取状況も確認している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿や、高血圧の方、小食の方に合わせ工夫している。必要な方には食事、おやつ以外での水分の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	している。必要時は歯科往診依頼している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は特にトイレにて誘導し、排泄して頂いている。尿意便意の無い方は、時間をみて誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、ヤクルト、繊維質の物などの摂取を取り入れたり、腹部マッサージなど必要に応じ行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフの確保の問題で、入居者が安全に入浴が出来る時間帯が限られており、時間は決めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように心掛けながら、基本的に本人さんの状態に合わせ日中でも休息してもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。通院記録にてスタッフ全員が把握できるようにしている。また薬服用後の状態変化など気づいた時にはすぐに申し送り、主治医に報告するべき時も対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵が趣味だった方には塗り絵を楽しんでもらったり、季節ごとに飾りつけの制作をしたり、気分転換になる作業を時々してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力で出来ている方もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症があられ、盗られ妄想などもあるので、大きなお金の管理は本人さん個人では難しい。本人とご家族に説明し、金庫で管理させてもらっている。小銭程度を自分で所持されている方は数人いる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話などしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう職員が飾りを配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に制限なく自由にして頂いているが、時々トラブルがある際は問題が起きる前に回避できる事はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や家具など自宅から必要な方は持ってきてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで廊下手すりの設置がしてあり、個々の部屋は必要に合わせベッドサイドの補助バーや、夜間用のＰＴイレの設置や。トイレの案内表示などをしている。		